

2025年3月8日利用者死亡事故に対する法人の対応について

2025年12月  
社会福祉法人 滝乃川学園  
理事長 谷 正行

2025年3月8日の矢川谷保間踏切内人身事故による利用者死亡事故以降法人として、再発防止に取り組んできました。

滝乃川学園の再発防止には、法人内部での取り組みだけでなく、外部からの指摘の必要性を認識し、5月より再発防止外部委員を設置しました。委員による関係職員の聞き取り、利用者（保護者）へのアンケート、職員へのアンケート、様々な資料の精査を経て、報告及び提言を2025年8月28日に受領しました。

理事会としては、この提言を受け、以下のように考えます。

今回の事故は、法人が抱える「氷山の一角」と捉え、提言内容を重く受け止めています。提言は、ガバナンスの在り方、個別に取り組む内容、管理職の育成、さらには学園のミッション、ビジョンにまで及ぶものもあり、非常に示唆に富んだ内容でした。

理事会では、検討チームを構成し、提言への取り組みを討議してきました。

緊急性が高い事項は既に取り組んでおり、今後は内容を精査のうえ、短期的に実行すべき事項と長期的に取り組むべき課題に分類し計画的に対応してまいります。

さらには、アンケート結果から職場の実態と組織風土に課題があることも明らかになりました。しかし、組織風土改革は2、3年で出来る事項ではなく、定着には5年、10年といった長期的に視点が必要です。職員がやらされ感なく、自らが主体的に行動する人財へと成長できるよう、業務遂行の在り方を見直し、改革を進めてまいります。

2025年10月1日より、谷正行が新理事長に就任しました。事故の対応、再発防止を最優先課題と位置づけ、再発防止外部委員の提言も踏まえ、「経営改革室」を設置しました。4つのプロジェクト①組織風土改革②ブランディング③事業計画作成遂行④DXを立ち上げ、安全管理体制の再構築と職員教育の強化を推進し、安全で安心できる事業運営体制の再構築を目指します。

今後も滝乃川学園は、利用者の安全と信頼を最優先に、組織全体の改革と成長に取り組んでまいります。

報告書は、細部にわたり検証してございまして長文となっております。そのため、要約版を今回お送りいたします。また、ホームページでも掲載いたします。